

■映画撮影による様々な効果

小樽は古くから、多くの映画やドラマの撮影が行われてきた歴史があります(表2)。国民的映画「男はつらいよ」では、シリーズ48作のうち2作品が小樽で撮影されています。1975年に公開された第15作「寅次郎相合い傘」は、「シリーズ最高作であるといってもよい完成度を持つ」と評価されており、山田洋二監督も「この作品は気持ちごとさら入っていた気がしますね」と述べています。なによりも50年前の小樽の街の風景が記録された映像は、小樽市民にとって大変貴重であるとともに、良い作品が地元で撮影されることでシビックプライドを育むきっかけになることは、十分考えられます。

また、OFC設立前の1995年に公開された映画「LOVE LETTER」は、小樽にとって記念碑的な作品になりました。日本公開から4年後の1999年に韓国で公開されるや、ソウルで約115万人、韓国全国で約300万人を動員する大ヒットとなり、この映画を契機に韓国から大勢の方々が小樽を訪れるようになりました。

国土交通省では、訪日外国人旅行者(インバウンド)数の飛躍的拡大のため、国を挙げた戦略的な取り組みとして「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を2003年に開始しますが、一本の映画がそれよりも早く小樽の街にインバウンドを呼び込む効果を上げていたわけです。「LOVE LETTER」は、現在まで韓国国内だけでも9回、再上映されており、世代を超えて引き継がれています。韓国では初公開から四半世紀を経ても、いまだに冬になると見たい映画として愛されており、今冬も多くの韓国の方々を小樽に導いています。

今回、OFCを通じてロケが行われたドラマ「さよならのつづき」は、2023年2月からロケハンが始まり、キャスト・スタッフ合わせて約100名による4カ月にわたる撮影が行われた結果、約4億円の直接的な経済効果を小樽にもたらしました。これまでの映画作品による直接的な経済効果は約2000万円、3500万円であり、比較すると10倍以上の効果を確認したわけですが(表1)、「さよならのつづき」は配信後2週にわたり、世界で連続トップ10に入り、国内では1位を記録するなど、

今後は、本作のロケ地巡りのため、多くの国内外観光客の小樽訪問が期待されます。すでにロケ地の一つとなった梁川商店街では、これまであまり目にしなかった外国人旅行者が数多く訪れるようになり、明らかに変化が起きているといった声も聞かれます。

■映画を通じたまちづくり

このように映画やドラマ等が小樽にもたらす経済効果は一過性なものに限らず、持続性があることが大いに期待されます。また、OFC設立後には撮影問い合わせ件数が増加しており、小樽を映画やドラマの舞台とするニーズはまだまだ続くことが予想されます。FCの存在がロケ地決定の重要なポイントになると言われています。FCで、OFCの役割は大変大きなものがあります。その活動を進めるためには、市民の理解と協力が不可欠であり、より多くの方がOFCに関心を持ち、参加していただくことが必要です。

一方、市内において映画やドラマの影響があると考えられるオーパーティリズムのため、住民が不自由したり困惑する事態が発生しており、外国人旅行者の死亡事故

も起きています。これらの課題については喫緊の対策が必要となっており全市的に真剣に取り組まなければなりません。観光資源の有効な活用策であり、若い人々に遡及する産業として、映画やドラ

マ制作のロケ誘致はもちろん、今後は、地元映像や音楽など関連分野を担うクリエイティブ産業の発展を進めることにより、映画やドラマの街としての幅と興行きが広がっていくと考えられます。

■参考文献

- ・ 広報おたる
- ・ 「おたる文学散歩第22話」
- ・ 北九州FC ホームページ



OFC HP

表2 小樽で撮影された主な映画作品一覧

公開年	タイトル	監督	主な出演者
2024	海の沈黙	若松節郎	本木雅弘、小泉今日子、中井貴一、石坂浩二ほか
2024	ぼくのお日さま	奥山大史	越山敬達、中西希亜良、池松壮亮ほか
2022	天間荘の三姉妹	北村龍平	のん、門脇麦、大島優子ほか
2019	ユンヒヘ	イム・デヒョン	キム・ヒエ、中村優子ほか
2016	世界から猫が消えたなら	永井聡	佐藤健、宮崎あおいほか
2015	きみはいい子	呉美保	高良健吾、尾野真千子ほか
2012	しあわせのパン	三島有紀子	原田知世、大泉洋ほか
2011	探偵はBARにいる	橋本一	大泉洋、松田龍平ほか
2010	「瞬 またたき」	磯村一路	北川景子、大塚寧々、岡田将生ほか
2009	FILM TOUR 「N43°」	TEAM NACS	TEAM NACS (大泉洋、安田顕) ほか
2009	恋極星	AMIY MORI	戸田絵里香、加藤和樹ほか
2008	ガチ☆ポイイ	小泉徳宏	佐藤隆太、サエコ、宮川大輔、泉谷しげるほか
2006	最終兵器彼女	須賀大観	前田亜季、窪塚俊介
2005	NANA	大谷健太郎	中島美嘉、宮崎あおい、松田龍平、成宮寛貴
2004	天国の本屋～恋火	篠原哲雄	玉山鉄二、竹内結子
2000	日本の近代土木を築いた人々	中嶋康勝	—
1995	プロゴルファー織部金次郎3飛べバーディー	武田鉄矢	武田鉄矢
1995	LOVE LETTER	岩井俊二	中山美穂、豊川悦司
1992	港	萩本欽一	渡哲也、田中美佐子
1991	時計館の秘密	山下秀雄	—
1991	はるかノスタルジー	大林宣彦	勝野洋、石田ひかり
1991	セイリング～海にはばたく～	中山節夫	石原良純、岡本舞
1987	恋人たちの時刻	澤井信一郎	河合美智子、野村宏伸
1987	「さよなら」の女たち	大森一樹	斉藤由貴、古村比呂
1981	駅・ステーション	降旗康男	高倉健、いしだあゆみ
1981	謀殺・下山事件	熊谷啓	山本圭
1980	桃尻娘プロポーズ大作戦	小原宏裕	武田かほり、亜湖
1978	夜が崩れた	貞永方久	原田芳雄、桃井かおり
1976	眠れ密	岩佐寿弥	長谷川泰子、吉行和子
1975	わが青春のとき	森川時久	山本圭、栗原小巻
1975	男はつらいよ寅次郎相合傘	山田洋次	渥美清、浅丘ルリ子
1974	北くにのとも子	酒井修	古川清子
1974	小林多喜二	今井正	山本圭、中野良子
1972	あゝ声なき友	今井正	渥美清、吉田日出子
1970	男はつらいよ望郷編	山田洋次	渥美清、松山省二
1969	少年	大島渚	渡辺文雄、小山明子
1967	旅路	村山新治	仲代達矢、佐久間良子
1964	赤いダイヤ	小西通雄	藤田まこと、三田美子
1962	サムライの子	若杉光夫	浜田光夫、松尾嘉代
1961	わが愛、北海道	黒木和雄	真理朋美、木村功
1958	人間の條件	小林正樹	仲代達矢、新珠三千代
1957	忘れ得ぬ人	吉村廉	筑波久子、待田京介
1957	喜びも悲しみも幾年月	木下恵介	佐田啓二、高峰秀子
1957	雨情	久松静児	森繁久弥、草笛光子
1948	ジャコ万と鉄	谷口千吉	三船敏郎、久我美子

表1 ロケ誘致による直接的な経済効果

公開年	タイトル	効果額	内 訳
2024	Netflixドラマ「さよならのつづき」	4億640万円	8350万円 宿泊費 4130万円 飲食費 3960万円 レンタカー等 2億4200万円 ロケセット、エキストラ、警備費ほか
2004	映画「天国の本屋～恋火」	3650万円	920万円 宿泊費 620万円 飲食費 2110万円 ロケセットほか